

## レビ記23章23-44章「秋の祭り」

### 1A ラツパを吹き鳴らす日 23-25

### 2A 贖罪日 26-32

### 3A 仮庵の祭り 33-44

#### 1B 火によるささげ物 33-38

#### 2B 主の前での喜び 39-44

## 本文

レビ記 23 章を開いてください、私たちの学びはレビ記 23 章の前半部分まで来ました。1 節から 22 節までを前回、学びました。23 章は、主に対する例祭、つまり例年行われる、主への祭りです。それが聖なることであることを学んでいます。

それらがすべて、週ごとの安息日を基本に回っています。安息日は、主を聖なるものとする日です。主が天地創造を始め、すべてのことを行われたことを覚える日です。私たちにとって聖なることは、主にあって休むことです。自分が働くのではなく、主がおられて、主が働いておられることを知り、この方に献げます。

そして春の祭りは、過越の祭りから始まりました。それと共に、種なしパンの祝いが七日間続きます。過越の祭りの三日目に、初穂の祭りがあります。これらが、キリストが成し遂げられた贖いの御業を指し示していることを学びました。過越の子羊は主が、十字架につけられ血を流された犠牲を示していました。そして事実、主は過越の祭りの期間中に死なれました。そして、三日目に主がよみがえりました。初穂の祭りは、主が復活のいのちの始まりであり、主を信じる者たちがそのいのちにあずかることを示しているのです。そして主ご自身が復活されたのは、初穂の祭りだったのです。そして、種なしパンの祝いは、パン種が取り除かれているようにするのですが、パン種は悪を示しています。罪や不法、偽りの教えなどです。罪が主の十字架によって、完全に取り除かれたことを示しています。七は完全数だからです。

そして初穂の祭りから七週を数えて、その翌日に、五旬節があります。そこでは、小麦の初穂を主に献げますが、種のあるパン二つ献げるのです。それは、二つのものが一つになったキリストの平和を示しており、ユダヤ人と異邦人が一つになったことを示しています。ルツ記も、まさに五旬節の時節に、ルツがボアズの妻になりますが、異邦人がユダヤ人に約束された祝福にあずかるのです。そして火によるいけにえが献げられ、そこで交わりのいけにえも献げられます。これもまた、交わりにある平和を示しています。そして、これが聖霊が弟子たちに降られて、教会が生まれる日を指し示していました。まだ罪ある者たちであっても、キリストが私たちをご自分のからだと

してくださいました。そして、ユダヤ人も異邦人もキリストにあって一つになり、交わりを主にあって保っているのです。

こうして、主が初めに来られた時に行われたことがあります。そして、主はご自分の働きを、私たちの間で行われます。その働きに対して、応答することこそが私たちの務めです。「ピリピ 2:12 - 13 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」救いの達成のために努めます。

そして、その働きが完成する時があります。それがキリストが来られる日です。「ペリ 1:6 あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。」春の祭りが、主が始められた良い働きであれば、これから見て行く秋の祭りは、その完成であります。主が来られて、そのなされたわざをご自身でいわば、収穫に来られるのです。

イエス様はご自身が来られたことを語られる時に、収穫の分け前を得るために戻って来る主人に喩えられたことを思い出してください。「マタ 21:33-34 もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がいた。彼はぶどう園を造って垣根を巡らし、その中に踏み場を掘り、見張りやぐらを建て、それを農夫たちに貸して旅に出た。収穫の時が近づいたので、主人は自分の収穫を受け取ろうとして、農夫たちのところにしもべたちを遣わした。」このしもべたちを打ち叩いて、最後に主人は自分の息子を遣わしますが、なんと農夫たちは殺してしまいました。それで、主人は彼らを情け容赦なく滅ぼします。

主が再び来られる時にも、同じことをされます。収穫は、ご自身の分け前を取りに戻られる時です。それと同時に、実を結ばない者たちを焼き尽くす裁きの時でもあります。「マタ 13:37-43 イエスは答えられた。「良い種を蒔く人は人の子です。畑は世界で、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らです。毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫は世の終わり、刈る者は御使いたちです。ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそのようになります。人の子は御使いたちを遣わします。彼らは、すべてのつまずきと、不法を行う者たちを御国から取り集めて、火の燃える炉の中に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。」主がなされたことにどう応答するか、その精算を行うのが、キリストの再臨です。

#### **1A ラッパを吹き鳴らす日 23-25**

<sup>23</sup> 主はモーセにこう告げられた。<sup>24</sup>「イスラエルの子らに告げよ。第七の月の一日はあなたがた

の全き休みの日であり、角笛を吹き鳴らして記念する聖なる会合を開く。<sup>25</sup> あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。食物のささげ物を主に献げなさい。」

秋の祭りは、第七の月から始まります。第一の月に春の祭りがあり、その完成が第七の月です。天地創造も、六日で造られ、七日に主は休まれました。そしてその時は、「全き休みの日」とあります。週ごとの安息日も大事ですが、この時はその安息を完全に保ちなさいという命令です。主の働きが完成するからです。

その始まりが、「角笛を吹き鳴らして記念する聖なる会合」とあります。この時からユダヤ人の政治の暦、政暦が始まります。新年です。宗教の暦は第一の月、過越の祭りの時から始まりますが、市民生活の暦においては第七の月から始まります。これはちょうど、西暦では一月一日が新しい年ですが、学校は四月初めに始まり、学年の新しい年は四月から始まるのに似ています。ヘブル語では、ロシュ・ハシヤナと言います(シヤナが年という意味で、ロシュは頭とか始まりという意味です)。新年のお祭りです。今年(2023年)は、9月16日でした。

ラッパは、イスラエルの民にとって、神の声を表していました。荒野で旅するイスラエルの民が、列をなして行進を始めるとき、祭司がラッパを吹き鳴らしました。敵に戦いに出るときも、ラッパによって戦いました。ラッパによって、イスラエルの民が集められ、一つにされます。

主がご自分の民を集められる時というのがあり、主が天から降りて来られて、ご自分の民に召集をかけることが、テサロニケ第一4章に書かれています。その時に神のラッパが吹き鳴らされます。「4:16-17 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」

この出来事ののち、私たちは、キリストのさばきの御座の前に立ちます。そこは、私たちの罪がさばかれるのではなく、むしろ、私たちが主にあって行なったすべてのことについて、褒美をもらうときです。「よくやった、忠実な良いしもべよ。あなたは、小さな事に忠実であったから、大きなことも任せよう。」と主が言われて、みなさんを御胸で抱きしめて、みなさんを受け入れられるときであります。この真理を知れば、自分の奉仕が人の前で認められなくても、主の前で認められることを知ります。人の前で祈らなくても、独りで祈っている祈りが、父なる神の前に届いているのを知りません。隠れたことがあらわにされるのが、この時なのです。

そして、このときは、自分がむだに行なったことが、きよめられ、火で焼かれる時でもあります。ですから、主が来られることを意識することは、私たちの心の動機にきよめをもたらし、本当に主

に愛されている愛によって、自分が突き動かされているかどうかを点検する動機ともなるのです。

## 2A 贖罪日 26-32

<sup>26</sup> 主はモーセにこう告げられた。<sup>27</sup>「特にこの第七の月の十日は宥めの日であり、あなたがたのために聖なる会合を開く。あなたがたは自らを戒め、食物のささげ物を主に献げなければならない。

「宥めの日」と、新改訳 2017 は訳していますが、長らく、贖罪日と訳されていました。ヘブル語では、ヨム・キプールと言います。ヨムは日を意味して、キプールは、贖いとか贖罪を意味します。今年は、9月25日です。第七の十日に行いますが、十は聖書では、「試す」という意味合いで多く出てきます。ダニエルが、野菜だけを食べさせ、自分たちを試してくださいとお願いしましたが、その時の期間は十日間です。彼らは、「自らを戒め」ることを求められます。罪を悔い改める時であり、ユダヤ人はここを、断食をすると解釈します。

そして、すでにレビ記 16 章で見た通り、一年の中で最も聖なること、大祭司が至聖所に入り、血を携えて、イスラエルの罪を告白し、清めていただくという儀式が行われます。

私たちは、キリストがご自分の血を流され、その血を携えて天の聖所に入られたことを知っています。この方にあつて、主なる神のおられる天に、恵みによって入ることが許されていることを知っています。けれども、イスラエルは、その指導者たちがイエスをメシアであると認めなかったため、その赦しにあずかれていないままです。そのことを悟るのは、ご自身が再び来られる時であることを、イエス様は予告されました。「マタイ 23:39 わたしはおまへたちに言う。今から後、『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』とおまへたちが言う時が来るまで、決しておまへたちがわたしを見ることはない。」

預言者たちは、イスラエルが悔い改め、救われるにあつて、彼らが苦難を通ることを数多く預言しました。「エレ 30:7 わざわいだ。実にその日は大いなる日、比べようもない日。それはヤコブには苦難の時。だが、彼はそこから救われる。」主が大きな患難が襲うのを許されて、彼らが悔い改めるに至らせ、そこで彼らがへりくだり、絶体絶命の彼らを救われ、敵を滅ぼされるというシナリオが、預言者たちから分かってきます。その時に彼らが見るのは、自分たちが突き刺した者であることを悟るのです。「ゼカ 12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。」この悔い改めによって、清められ、救われるのです。

主が来られる時に、大患難において残された者たちが告白しているのが、あの有名なイザヤ書 53 章です。そこでは、主が戻って来られる時に、その方がイエスであることを悟っている告白です。

見栄えのしない人として育ち、病の人となりました。そして、こう告白します。「イザ 53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」キリストのなされたこと、つまり、その打たれた傷によって癒され、流された血によって清められ、私たちはすでに御霊によって受けています。しかし、それをイスラエルの民は、苦しみの中で主を呼び求めると、戻って来られたイエスによって、ついに悟るのです。

<sup>28</sup> その日のうちは、いかなる仕事もしてはならない。その日が宥めの日であり、あなたがたの神、主の前であなたがたのために宥めがなされるからである。<sup>29</sup> その日に自らを戒めない者はだれでも、自分の民から断ち切られる。<sup>30</sup> だれでも、その日に少しでも仕事をする者は、わたしはその人をその民の間から滅ぼす。<sup>31</sup> いかなる仕事もしてはならない。これは、あなたがたがどこに住んでいても代々守るべき永遠の掟である。

主が宥めを行われる、その時は、全く主が行われることによるのみ救われるのであって、私たちが動く余地は全くありません。ですから、全き休みを取り、かつ自分を戒めるのに時間を費やします。今でも、イスラエル人は、宗教的でない人でさえ、この日だけは多くが断食をして、休みを取ります。イスラエルから送られてくる写真はいつも、大きな車道で子供たちが自転車に乗っている姿があります。大通りなのに、車が一台も走っていないからです。そして、有名な戦争があります。1973年に起こった、ヨム・キプール戦争です。エジプトとシリアが、イスラエル人たちが全き休みを取ることを知って、奇襲攻撃をしかけてきたのです。

<sup>32</sup> これは、あなたがたの全き休みのための安息日である。あなたがたは自らを戒める。その月の九日の夕暮れには、その夕暮れから次の夕暮れまで、あなたがたの安息を守らなければならない。」

イスラエルでは、一日は夕暮れから始まります。ですから、十日は九日の夕暮れから始まり、次の夕暮れまでになります。

### **3A 仮庵の祭り 33-44**

#### **1B 火によるささげ物 33-38**

<sup>33</sup> 主はモーセにこう告げられた。<sup>34</sup>「イスラエルの子らに告げよ。この第七の月の十五日には、七日間にわたる主の仮庵の祭りが始まる。<sup>35</sup>最初の日には、聖なる会合を開く。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。<sup>36</sup>七日間、あなたがたは食物のささげ物を主に献げなければならない。八日目も、あなたがたは聖なる会合を開かなければならない。あなたがたは食物のささげ物を主に献げる。これはきよめの集会であり、いかなる労働もしてはならない。」

第七の月の十五日から、七日に渡る祭りが、仮庵の祭りです。スコットと呼ばれますが、仮庵の意味です。仮の庵、つまり仮住まいをします。イスラエルが、荒野の旅をして無事に約束の地にまで主が導いてくださったことを覚えて、お祝いします。第一日目に聖なる会合をして、労働を一切しません。七日が満ちて、その次の八日目も、同じように労働をしません。八日目は、無事に約束の地に着いたことを記念します。今年は、9月29日から10月6日までです。ですから、間もなくですが、イスラエルに注目すれば、至る所にこの仮庵を作っている家々の姿を見ることができます。

<sup>37</sup> 以上が主の例祭である。あなたがたは聖なる会合を召集して、全焼のささげ物、穀物のささげ物、交わりのいけにえ、注ぎのささげ物を、食物のささげ物として、それぞれ定められた日に主に献げなければならない。<sup>38</sup> このほかに主の安息日、また、あなたがたが主に献げる献上物、あらゆる誓願のささげ物、あらゆる進んで献げるものがある。

この例祭においては、いけにえのあらゆるものが献げられます。これはちょうど、春の祭りの最後が五旬節で、多くのいけにえが献げられたのと同じように、秋の祭りの最後であり、主がその時に多くのささげ物を受け入れられ、人々も大いにお祝いするのです。

キリストの初めのお働きで、聖霊が注がれて多くの人々が救われ、人々が主をほめたたえています。それが今に至るまで、世界中で主の御名が呼び求められ、人々が喜んでいます。しかし、それは、ほんの始まりに過ぎません。主が再び来られた時には、最後の収穫が行われ、世界がすべて主のものとなり、人々がこの地上で大祝会を開くのです。「マタ 8:11 あなたがたに言いますが、多くの人々が東からも西からも来て、天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブと一緒に食卓に着きます。」これが、神の国の姿です。キリストが王の王として治められ、神の民とされた者たちも、この食卓に、アブラハム、イサク、ヤコブと一緒に食卓に着きます。

イエス様が、最後の晩餐の時に弟子たちに言われました。「ルカ 22:15-18『わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をするのを、切に願っていました。あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をするのは、決してありません。』そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。『これを取り、互いの中で分けて飲みなさい。あなたがたに言います。今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。』」主が、神の国が来るまで、弟子たちと食事をするのではない、これが最後の食事だと言われているのですが、言い換えますと、主が再び来られて、神の国を立てられたら、そこで食事を再開させるのです。

ゼカリヤ書 14 章には、世界中から仮庵の祭りに集うために、エルサレムに上って来るという預言があります。「14:16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。」このように、贖われたイスラ

エルの民の祭りに、世界中の国々の者たちが共にお祝いに来ます。イスラエルでは、仮庵の祭りの時に、世界中からのキリスト者が集まって、エルサレムで行列を組んでお祝いをします。「エルサレム・マーチ」と呼ばれます。こうしたことが、何十倍、何百倍の規模で主が来られてから、行われるでしょう。

## 2B 主の前での喜び 39-44

<sup>39</sup> 特に、あなたがたがその土地の収穫をし終える第七の月の十五日には、七日間にわたる主の祭りを祝わなければならない。最初の日は全き休みの日であり、八日目も全き休みの日である。

<sup>40</sup> 最初の日、あなたがたは自分たちのために、美しい木の実、なつめ椰子の葉と茂った木の太枝、また川辺の柳を取り、七日間、あなたがたの神、主の前で喜び楽しむ。

このように、仮庵の祭りは、収穫のすべてを終える時です。ですから、収穫の実を携えて、主の前で喜び楽しみます。木の実を持って来ます。そして、なつめ椰子の葉と太枝、柳を取って、それを降って喜びます。不思議なことに、これを過越の祭りの日が近づいた時に、イエス様がエルサレムにろばの子に乗られて入城される日曜日に、これを群衆が行ったのです。それは、過越の祭りが本当の意味で成就するのは、仮庵の祭りであり、その時に王がエルサレムに入城されるからです。「詩 118:26-27 祝福あれ【主】の御名によって来られる方に。私たちは【主】の家からあなたがたを祝福する。【主】こそ神。主は私たちに光を与えられた。枝をもって祭りの行列を組め。祭壇の角のところまで。」

<sup>41</sup> 年に七日間、主の祭りとしてこれを祝う。これはあなたがたが代々守るべき永遠の掟であり、第七の月に祝わなければならない。<sup>42</sup> あなたがたは七日間、仮庵に住まなければならない。イスラエルで生まれた者はみな仮庵に住まなければならない。<sup>43</sup> これは、あなたがたの後の世代が、わたしがエジプトの地からイスラエルの子らを導き出したとき、彼らを仮庵に住ませたことを知るためである。わたしはあなたがたの神、主である。」

先ほどの話しましたように、イスラエルの民が荒野の旅をしている時に、仮住まいしかできませんでした。しかし、主は確実に約束の地へ導いてくださいました。主が真実な方であることを、仮庵の住むことで思い起こします。子が父に、仮庵の隙間から見える夜空の星を見て、「お父さん、星が見えるね。」と言ったら、お父さんが、「息子よ、私たちの父祖もこのようにして荒野の旅をしている時に、夜空の星を見ていたんだよ。」といて思い起こさせていたのです。そして、八日目はそのことを行いません。すでに約束の地に着いていることを覚えるからです。

イエス様の時代、神殿が建てられていました。祭司たちは、仮庵の祭りの最中、シロアムの池から水を汲んで、それを都上りの道を通って、北上し、神殿の敷地内に入り、祭壇のところで水を注ぎます。それは、荒野において主が水を流して下さり、その奇跡で生きることができたことを思

い起こすためです。けれども、八日目には行きません。約束の地には水が流れているからです。けれども、その日にイエス様が立ち上がられました。「ヨハ 7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。『だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。』」

主は、御霊のことを語られていました。しかし、これは聖書が言っている通り、と主は言われます。荒野に川が流れるという預言がありますが、確かに川が流れるようになるのですが(イザヤ 41:18 等)、神の国では、御霊による豊かさがあるこそ、そこにいのちがあり、平和があり、喜びがあるのです。「イザ 44:3 わたしは潤いのない地に水を注ぎ、乾いたところに豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。」主イエスご自身こそが、神の国において御霊を注がれて、豊かにされる方なのです。

聖霊によって、初めて義と平和と喜びがあります。「ロマ 14:17 なぜなら、神の国は食べたり飲んだりすることではなく、聖霊による義と平和と喜びだからです。」私たちは、荒野が川になるのを見ていませんが、しかし、心に溢れるばかりの平和と喜びを聖霊によって与えられています。信仰によって、義と認められたからです。将来、主が再び来られる時は御霊の大収穫、つまり、全世界の贖いが待っています。

<sup>44</sup> こうしてモーセはイスラエルの子らに主の例祭のことを告げた。

いかがでしたでしょうか？主ご自身の七つの祭りによって、私たちもキリストの働きの中に生かされていることを知る事ができたのではないのでしょうか？この方を覚えるために集まることは、聖なる会合であり、聖なることなのです。そして、主が再び来られるという希望をもって集まります。